

# 世界一読みたい受験期

東京大学 理科一類合格（京山中学校、津島小学校出身）

この度東京大学理科一類に進学することになりました。ここでは僕が受験を通して勉強について感じたことを書かせてもらいたいと思います。あくまでも僕の主観であり諸説ある中の一説なのでホンマでっか！？というような態度でお読みください。ちょっと番組が違いましたかね。

さて、まず僕が伝えたいのは学校の予復習を徹底して欲しいということです。これは別に後ろに先生がいる中で書いている訳ではなく、僕が本当に思っていることです。朝日高校で要求される予習、復習は確かにかなりの量ですし、僕以外にも多くの方がそう感じていると思います。僕が一年生で入学したばかりの時は、朝日で生き残るためには友達の名前よりも先にまず予習のサボり方を覚えなければ、と思っていました。そして実際サボり方の情報をたくさん手に入れることに成功しました。と言っても、他に何をやって良いかも分からず、また先生にも追い立てられ、結局僕は予復習をサボらずやり続けました。その時は正直言って予復習の意味や効果はわからないままでやっていました。それが分かったのは三年になって教科書内容が終わり問題演習をやり始めてからです。問題集や過去問で、予習が特に大変だった古文や英語はいつの間にか得意科目になり、理系科目もスムーズに応用問題に取り組むことができるようになっていました。その時初めて自分が予復習で基礎を身につけることが出来ていたことに気が付いたのです。勉強はしている時には今やっていることが正しいのか分からないものです。是非は事後的にのみ分かります。そのため、まずは特定の勉強を効果があると信じてするしかありません。その時多くの朝日卒業生が結果を保証してくれている授業の予復習を信じるのが良いと思います。と、ここまで偉そうに言ってきましたがあくまで僕の主観なので、信じるか信じないかはあなた次第です。ちょっと番組が違いましたかね。

あともう一つ僕が伝えたいのは納得がいくまでじっくりと考えることです。特に理系科目ですが、どこかモヤモヤしているところがあるといざ応用問題に取り組む時、基本的なところが分からなくなってしまうことがよくあります。モヤモヤしているということは納得できていない部分があるということです。だから、なんかモヤモヤするなと思ったら、まずはどこが分からないのかあるいはどこが納得出来ないのかを徹底的に考えてください。そこが分かったらまずは自分で考えて、それでも分からなかったら先生に聞きましょう。それで納得したところは忘れることはないですし、再び詰まることもありません。あと、そのように深く考えようとする時かなり集中力が必要になるので睡眠は十分に取らしましょう。